

平成28年1月 データから見た業界の動き

■ 概 況

平成28年1月の山梨県内の全業種のD I 値（前年同月）で比較すると収益状況2ポイント悪化したが、売上高で2ポイント、景況感2ポイントと全体的な景況感は改善傾向にあるように見える一方、前月比で比較すると売上高、収益状況で6ポイント、景況感では8ポイント悪化している。

特に、製造業では前月比の売上高、収益状況、景況感ともに15ポイントと急激に悪化した。

年明けから日経平均株価の大幅な下落、アメリカの利上げ、中国の景気減退に加え天候不順の影響もあり山梨県内の景気は、一気に冷え込んでいる。

さらに、公共事業の減少は県内の景況感を低下させる大きな要因になっている。

一方、石油製品の値下がり、長引く原材料等のコスト増に苦しむ企業の負担を和らげる要因となっているが、石油製品を販売するガソリンスタンドでは売上に結びつかず資金繰りに影響がでているとの報告が寄せられた。

また、円安が追い風となり中国等からの訪日旅行客によるインバウンド消費が宿泊業を中心に拡大してきたが、中国経済の減速や円高傾向への懸念から不安を募らせる報告もあり、山梨県内の多くの企業が、中国の景気減速による影響を注視している。

今後、国内展開が中心の中小・小規模企業にとっては、価格競争や技能者の人手不足、物価上昇に伴う消費者マインドの低下等、利益を押し下げる要因・経営課題が山積していることに加え、中国経済をはじめ世界経済の影響により経営難に陥る中小・小規模企業者が増えることが懸念される。

■ 業界からのコメント （業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照）

● 製 造 業

食料品（水産物加工）	ギフト商品やレストラン等向けの生食材は好調だが個人向け煮貝が低調のため全体の売上は前年同月比101%。
食料品（洋菓子製造）	海外の景気減速による輸出や国内需要の低迷により全体の売上は81%と大きく落ち込んだ。
食料品（製麺）	閑散期により売上は減少。
食料品（菓子）	原油価格の値下がりによりコスト減に繋がっている。
繊維・同製品（織物）	インテリア商品については順調だが、裏地は受注減、傘地は閑散期のため低調。
繊維・同製品（アパレル）	暖冬により冬物衣料が非常に悪い。

窯業・土石（山砕石）	例年、年末から年度末にかけて公共工事が集中し需要が見込まれていたが、昨年の4月から前年を下回る出荷状況が続いている。
鉄鋼・金属①	日本国内は、横ばい状態、中国の景気減速でアジア全体で下降ぎみ
鉄鋼・金属②	前年同月より悪化している。
一般機器	株価の暴落、円高、原油価格の低下等で経済が不安定なため3月の決算期を目前に厳しい状況が続いている。また、輸出関係は上向きだが国内需要は悪化傾向が続いている。
電気機器	中国経済の悪化が進んでいるため、製造業全体が更に悪化。
宝飾（貴金属）	業況は悪化傾向にある。

● 非製造業

卸売（紙製品）	鉄鋼原料はリーマンショック時に似た現象（原油価格の暴落が長期化。夏場に最高値をつけ冬場の需要期に向け急落。）が起きてきているが、古紙についてはその現象は見られない。しかし、中国経済の衰退が進行しているため先行き不安が強まっている。
卸売（ジュエリー）	国内流通は低迷が続いている。中国バイヤーの爆買いも陰りを見せ、購買商品も高額品から中級に移行している。今後の中国バイヤーの動向を注視している。
小売（青果）	暖冬から寒波到来により品不足や急激な価格高騰等により売上減。
小売（食肉）	昨年度から続く食肉の高騰により、販売価格は前年対比上昇しているが売上に結びつかず収益状況は悪化している。
小売（電機製品）	テレビは単価増、エアコンは寒波到来により好転、LED化が進んでいるが単価が低下しているため売上には結びつかない。そのため地域店の売上は前年対比大幅減。
小売（石油）	アメリカの利上げ等の影響もあり原油価格の暴落が長期化しているため、消費者にとっては安値になったが、売上に結びつかずガソリンスタンド経営の資金繰りに影響がでている。
商店街	初売りのため福袋目当や甲府市観光課の主催によるイベントにより県外からの来街者も多く見られたが、寒波到来により来街者は急激に減少した。
不動産取引	年明け早々、土地購入希望の問い合わせが増加している。
宿泊業①	正月を過ぎると観光客の宿泊は減少傾向になるが、今年はコンサートや学会などが週末に行われたため平年並みを維持した。
宿泊業②	中国を中心とする外国人旅行者は現状順調だが、先行きには中国経済の停滞による不安感を持っている。国内観光客も徐々に増加傾向にあるが日銀のマイナス金利他、経済不安から減少することが懸念される。

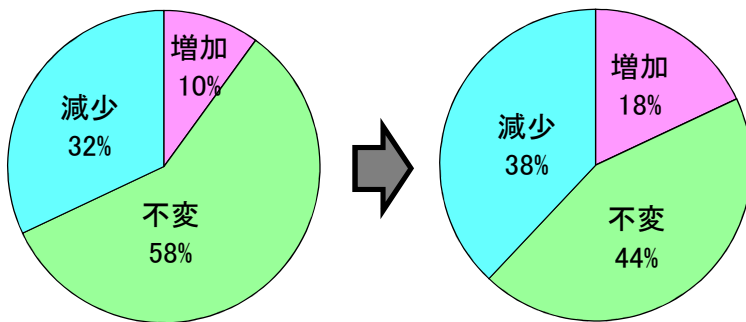
美容業	組合員の高齢化により組合を脱退する組合員が増えている。独立した若手美容師を組合に加入促進しているが、加入してもらえない状況にある。
警備業	年度末工事の増加により建設業からの受注が順調に推移しているが、警備員の人手不足が深刻化している。また、現場の安全確保の面から関係機関の強力な指導と安全費の拡充などにより警備員配置要請が多くなっているのが追い風となっている。
建設業（総合）	1月の県内公共工事動向は、前年同月に比べ件数で3%増加しているが請負金額で35%減少。1月までの累計では、件数10%、請負金額12%減少している。今後、建設業保証会社による平成28年1月～3月の景況見通しは、「悪い傾向がやや強まる見通し」となっているため動向を注視したい。
建設業（型枠）	1月はリーマンショック以上に酷く、かつて経験がないくらい仕事がない。公共、民間工事もと仕事が薄く、春以降の発注に期待。
建設業（鉄構）	内は中弛み傾向で景気が浮上する気配がない。組合員企業の手持量・稼働率が二極化傾向にあり人材不足の影響による稼働率の低下も見られる。
設備工事（電気工事）	前年対比、仕事量が減少。今後の見通しも暗い。
設備工事（管設備）	アパート賃貸物件の増加により売上は増加、販売価格も円安による原材料値上がりにより価格上昇が続いている。
運輸（タクシー）	寒波到来により稼働率が上がったため、売上増となった。
運輸（バス）	外国人観光客が増えているため車輛を増車すれば受注も増加すると思われるが、人手不足の影響で若手ドライバーの確保ができない。
運輸（トラック）	原油価格の一時的な値下りにより、多少コスト削減に結びついている。今後、反動による急激な燃料価格の高騰などに注視している。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2015/1	2015/12	2016/1	2015/1	2015/12	2016/1	2015/1	2015/12	2016/1
売 上 高	-15	-20	-35	-27	-10	-10	-22	-14	-20
収 益 状 況	-15	-25	-40	-10	3	3	-12	-8	-14
景 況 感	-15	-30	-45	-30	-3	-7	-24	-14	-22

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値

売上高（前年同月比）

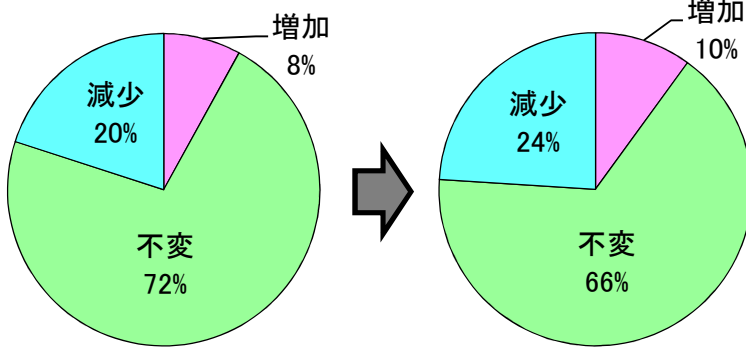


平成27年1月

平成28年1月

- ・ D I 値 ▲20（前年同月比+2）
- ・ 業種別 D I 値
 - 製造業 ▲35（前年同月比▲20）
 - 非製造業 ▲10（前年同月比+17）
- ・ 前月比 D I 値
 - 製造業 15ポイント悪化
 - 非製造業 不変

収益状況（前年同月比）

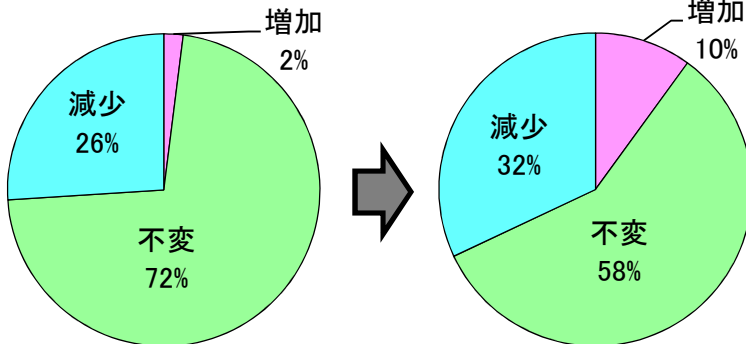


平成27年1月

平成28年1月

- ・ D I 値 ▲14（前年同月比▲2）
- ・ 業種別 D I 値
 - 製造業 ▲40（前年同月比▲25）
 - 非製造業 +3（前年同月比+13）
- ・ 前月比 D I 値
 - 製造業 15ポイント悪化
 - 非製造業 不変

景況感（前年同月比）



平成27年1月

平成28年1月

- ・ D I 値 ▲22（前年同月比+2）
- ・ 業種別 D I 値
 - 製造業 ▲45（前年同月比▲30）
 - 非製造業 ▲7（前年同月比+23）
- ・ 前月比 D I 値
 - 製造業 15ポイント悪化
 - 非製造業 4ポイント悪化

昨年対比グラフ

売上高

平成27年1月	増加	不変	減少
	10%	58%	32%
平成28年1月	増加	不変	減少
	18%	44%	38%

収益状況

増加	不変	減少
8%	72%	20%
増加	不変	減少
10%	66%	24%

景況感

増加	不変	減少
2%	72%	26%
増加	不変	減少
10%	58%	32%